

BPT (バイオマスプロジェクトチーム) だより No.20

http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm



平成18年6月30日 (金)
バイオマスプロジェクトチーム
(環境生活部資源循環推進課)

1. 事業の進捗状況について

○バイオマス利活用フロンティア推進事業について

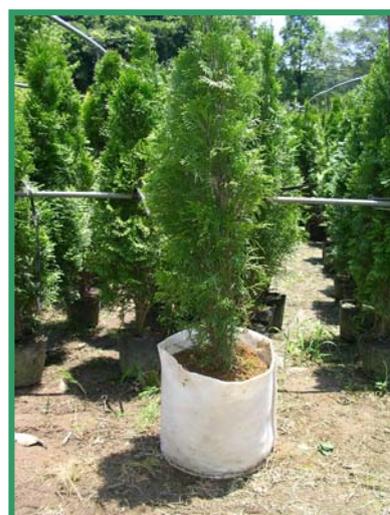
【バイオマスプラスチック導入実証支援】

「とうもろこし」などの植物からできたバイオプラスチックは、石油製品に代わる素材としてその普及が期待されています。本事業はバイオマスプラスチックの普及啓発を行う事業で、平成17年度の実施状況は次のとおりです。

「そうさバイオマスプラスチック栽培組合」(匝瑳市)では、バイオマスプラスチックの生分解性を利用した環境にやさしいポットを使った植木生産に取り組みました。

また、NPO法人「バイオマス産業社会ネットワーク」及びNPO法人「バイオランド芝山」では、鶏卵パック・トマトパック・バナナ袋・納豆パック包装フィルム等の普及に取り組み、これらの製品は全国のイオングループで販売されました。

本年度も引き続き、同様の取組が行われる予定です。



バイオマスプラスチック製の植木ポット



バイオマスプラスチック製の鶏卵パック



バナナ袋

2. 普及啓発活動について

○第4回市町村勉強会

6月1日、県庁にて第4回市町村勉強会を実施しました。当日は20市町村24名の職員の参加がありました。

県からバイオマスの基本知識や「バイオマスの環づくり交付金」の説明を行った後、各

自治体のバイオマス利活用の取組状況、市民への普及・啓発方法、バイオマス資源の利活用方法、市町村内部での連携体制、バイオマスタウン構想策定についての疑問点と先進自治体からのアドバイス等、活発な意見交換が行われました。

今後とも、定期的にテーマを設定して開催することとしています。

○千葉県飼料品質改善研究会講演会

6月23日、千葉県飼料品質改善研究会主催による、食品残さの飼料化推進にあたっての意識の醸成や注意喚起を目的として講演会が開催され、バイオマスプロジェクトチームから「未来につながるバイオマスタウン」という演題で講演を行いました。

参加者は県内飼料会社の品質管理担当者ということで、安全性や品質、安定供給などについて熱心な意見、質問があり、具体的な取組を進めたいという会社も数社見られました。



3. バイオマス関連報道について

○ワールドビジネスサテライト

6月16日、テレビ東京のワールドビジネスサテライトで「バイオ燃料の未来は」という特集が生まれ、バイオマスの先端技術の一例として「バイオマス立県ちばアドバイザー委員会」委員である望月和博東京大学客員助教授が出演し、もみ殻からエタノールを作る研究を紹介しました。

作業工程として、香取市（旧山田町）のバイオマス実証プラントにおける、爆砕（もみ殻に高圧をかけて粉砕することでエタノールの原料となるセルロースを取り出しやすくする）風景も紹介されました。

バイオエタノール

サトウキビなどの糖分、イモ類などのでんぷんや木材などのセルロースを原料として発酵・蒸留させてつくるアルコールの一種です。

自動車用燃料としてブラジルや米国で導入が進んでおり、国内ではサトウキビの生産が盛んな沖縄県宮古島、伊江島などで実証実験が始まっています。

植物の炭素は、もともと大気中のCO₂が光合成により固定されたものなので、燃焼等によりCO₂が発生したとしても、実質的に大気中のCO₂を増加させません（カーボンニュートラル）。

エネルギー対策や温暖化防止対策の観点から、国はバイオエタノールの導入を積極的に推進しています。